

「主体的・対話的で深い学び」を実現する 小学校国語科説明文における発問の研究 — 同一教材を用いた読解力と記述力の発達 —

古 川 元 視

A Study of Questions and Instructions about Explanatory Sentences in Elementary School Japanese Class for the Realization of Independent, Collaborative and Deep Learning : Development in Reading and Writing Abilities While Using the Same Teaching Material

Motomi FURUKAWA

【要 旨】

本研究は、各学年50名（小学校3校）の児童を対象に、国語科説明文における発問の調査を実施し、その結果を分析・考察したものである。第1～第3学年は、「じどう車くらべ」を、第4～6学年は、「アップとルーズで伝える」の本文と発問を1時間で解いてもらった。その結果、第1～第3学年では、学年が上がるにつれて正答率は上がり、誤答率と無解答率は下がった。3学年とも一番高い正答率の問題は本を検索する力を問う問題であり、一番低い正答率の問題は、文章の全体構成を捉え、展開部での例の挙げ方の工夫を捉える問題であった。第4～第6学年では、学年が上がるにつれて正答率が上がる問題もあればそうでない問題もあった。誤答率は、学年が上がるにつれて必ずしも減少はしなかった。無解答率は学年が上がるにつれて減少した。3学年とも一番高い正答率の問題は、条件に合わせて記述する問題であり、一番低い正答率の問題は、読解したことを生活と繋げる問題であった。これらの調査結果から、題名を読む、事例の挙げ方を読む、自分の知識や経験と繋げて読むなどの発問に課題がある。また、思考を伴う発問にも課題がある。明確な目的・意図を設定し、分かりやすい表現を用いた発問を構想する必要がある。

【キーワード】

説明文、発問、読解力、記述力

1 はじめに

(1) 児童期における読解力及び記述力の課題

児童期における読解力及び記述力の課題は、次のようなことである。

- ① PISA の調査¹⁾が示した課題
 - 文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていない。
 - 視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄で知覚した情報を吟味して読み解いていない。
 - ② 令和元年度全国学力・学習状況調査²⁾が示した課題
 - 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに課題がある。
 - 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。
 - ③ 中央教育審議会答申³⁾が示した課題
 - 判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べたり、結果を分析して解釈・考察し説明したりすることに課題がある。
 - 視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことが少なくなっている。
 - 読書活動についても、受け身の読書体験にとどまっており、著者の考えや情報を読み解きながら自分の考えを形成していくという能動的な読書になっていない。教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もある。
- これらを整理すると次のようになる。

【① 読解力の課題】 文章様式の特徴、文章の目的、筆者の意図などを推論してまとめることができないのに加え、文章の構造分析や一文の意味把握が難しいなどの課題がある。

【② 記述力の課題】 文章の内容・情報を根拠に、文章と関連する内容を統合することに課題がある。また、ある程度の把握が可能であっても読者に対して分かりやすく簡潔に理由説明することに課題がある。

【③ 読書力の課題】 読書量が少なく、受け身の読書体験にとどまっている。情報を主体的

に読み解き、考えの形成に生かすインタラクティブ・リーディングが必要である。

(2) 読解力・記述力の課題と国語科の発問

このような課題を生み出す要因の一つになっているのが、国語科の授業における発問である。本文の内容を取り出して整理することに重きがおかれ、説明文の読解力及び記述力を高めるように機能していないという現状があるからである。ただ、既に国語科の発問研究としては改善のための様々な提案がなされている。川本(2010)⁴⁾は、「目的による分類」として提示的発問、補助的発問、確認的発問(1)(2)、「使う時期による分類」として、予定的発問、即興的発問を挙げている。寺井(2015)⁵⁾は、言語活動の授業づくりを前提にして、① 単元の展開に即した発問、② 言語活動の種類や文章のジャンルに応じた発問、③ 学習者の問いを示している。青木(2017)⁶⁾は、授業時間数や全国学力・学習状況調査などへの対応、読書への接続ということから、「フレームリーディング」という読み方を提案している。

井上(2015)⁷⁾は、読書力及び読解力の広い視野から内容主義を克服するための定番教材による発問を具体的に提唱している。発問理論の支柱となる観点となる7つである。

- ① 学習者から見た発問構想
- ② 発問の基盤となる教材開発
- ③ 単元構想及び授業に基づく発問の展開
- ④ 読解と読書活動に応じる発問
- ⑤ 読書のプロセスに応じた発問
- ⑥ 精読力・読書力を向上させる発問
- ⑦ 発問の種類と発問のための学習用語

このような提案がされているのにも関わらず、国語科の読むことの領域では十分反映されていないのである。

そこで、発問によって(実際には調査課題を基に)説明文の読解力及び記述力の発達過程を調査することにした。調査においては、児童期の説明文を低学年(第1～第3学年)、高学年(第4～第6学年)の2段階に分ける。それぞれ同一の発問を用いる。また、発問の工夫や授業アイデアについても言及する。

2 調査の目的

次のようなことを目的として調査を行った。

- (1) 児童期における説明文の読解力と、その解釈を示す記述力の学年別発達傾向を解明する。児童期を2段階に分けて傾向を探る。
 - ① 第1～3学年まで通した傾向。
 - ② 第4～6学年まで通した傾向。
- (2) 説明文の発問を具体化し、読解力や記述力にどのような影響があるかを解明する。
- (3) 調査結果を踏まえて、説明文の発問及び授業のアイデアを構想する。

第1～3学年の調査問題文の形式 (第4～6学年の形式も同様) 「じどう車くらべ」(本文縦書き略)
① ぼうせん⑧「じどう車くらべ」は、だいいめいです。「じどう車」と、「じどう車くらべ」では、どのようにちがってかんじられますか。おもったことを九十じいないでかきましょう。(以下②問題に続く)

第1～3学年の調査問題の発問一覧

① ぼうせん⑧「じどう車くらべ」は、だいいめいです。「じどう車」と、「じどう車くらべ」では、どのようにちがってかんじられますか。おもったことを九十じいないでかきましょう。
② ぼうせん②「バス(ばす)やじょうよう車は、人をのせてはこぶ仕事をしています。そのために、ざせきのところが、ひろくつってあります。」は、二つのぶんになっています。つないで一つのぶんにしなす。二つ
③ ほかでしらべた「でんしゃくらべ」という本では、「ふつうれっしゃ」→「とつきゅううれっしゃ」→「しんかんせん」のじゅんじよでせつめいしていました。これは、「おぞいでんしゃ」から「はやいでんしゃ」というじゅんじよでならべていることがわかります。では、「じどう車くらべ」のつぎの三つは、どういうじゅんじよでならべてありますか。四十じいないでかきましょう。
④ 「じどう車くらべ」では、「バス」などを「仕事」と「つくり」でせつめいしています。たろうさんは、「クレーン車」のあとに、「仕事」と「つくり」をいれて、「はしご車」についてかこうとおもいます。四十じくくらいでたろうさんといっしょにかいてみましょう。(イラスト付き)
⑤ ずかんで「じどう車」の「仕事」と「つくり」をしらべました。すると、つぎのような「きゅうきゅう車」についてかいてあるところを見つけました。しかし、「じどう車くらべ」のように「仕事」と「つくり」ということばをつかっています。「きゅうきゅう車」の文で「仕事」「つくり」のことがかいてあるところにぼうせんをひきましょう。 きゅうきゅうしゃは、けがをした ひとや びょうきの ひとを びょういんにはこびます。そのために、くるまのなかに、べつとや ちりょうにつかう どうぐをおく くふうをしています。
⑥ バトカー(ばとかー)についてとしかんでしらべています。「バトカー」というだいいめのずかんを見つけました。ほかにどのようなだいいめのずかんをさがしたら「バトカー(ばとかー)」がのっているのでしょうか。ずかんのだいいめをかきましょう。

3 調査の方法

(1) 調査の対象

- ① 佐賀県唐津市立相知小学校
- ② 佐賀県唐津市立簗木小学校
- ③ 佐賀県唐津市立湊小学校

調査数は、各学年合計50名とする。

(2) 調査問題の実際

第1～3学年は、「じどう車くらべ」(第1学年)の本文と発問を掲載した3枚のペーパーを1時間で解く(計6問)。第4～6学年は、「アップとルーズで伝える」(第4学年)の本文と発問を掲載した3枚のペーパーを1時間で

第4～6学年の調査問題の発問一覧

問① 題名は、これからどんなことを説明するのかをあらわしたものです。ひっしゃ(書いた人)は、「アップとルーズ」ではなく、「アップとルーズで伝える」という題名にしました。「アップとルーズ」と「アップとルーズで伝える」は、どのようにちがってかんじられますか。思ったことを七十五字いなくて書きましょう。
問② ②の段落には「アップとルーズでは、どんなちがいがあるのでしょう。」という問いの文があります。ひっしゃは、なぜ、問いがある②の段落の前に③と④の段落を書いたのでしょうか。七十五字いなくて書きましょう。
問③ ひっしゃは、テレビと新聞の写真の例を例にあげて「アップ」と「ルーズ」を説明しています。あなたなら、④の段落のあとにどのような例をだしますか。十五字いなくて書きましょう。
問④ この説明文には、写真がありません。テレビの説明部分の③と④と⑤の段落の下に写真を入れます。もうまいルーズの写真を入れるとするとどの段落の下に入れますか。また、それはなぜですか。
問⑤ ④の段落に「各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気もちまでは、なかなか分かりません。」というルーズでとった写真では伝えられないことが書いてあります。その文を「アップでとった写真は、」からはじめて書きかえましょう。
問⑥ この説明文は、二つをくらべながら、それぞれのよいところとわるいところを説明しています。この説明文を参考にして、花子さんは、「はし」についてつぎのように書きました。「はし」とおなじように「スプーンは、」からはじめて書きましょう。 「はしは、ちいさなものでもはさんで食べたり、いどうさせたりすることができます。しかし、スプーンのようなものはさむことはできません。」
問⑦ りなさんは、ずかんで写真のアップとルーズがどのように使われているのか調べることにしました。すると、つぎのようなライオンの顔をアップでとった写真を見つけました。③の段落をさんこうに、つぎのじょうけんにあわせて書きましょう。 じょうけん1 一文目は、「アップでとった〇〇のシーンを見てみましょう。」ではじめること。 じょうけん2 二文目は、アップでとった写真のいいところを書くこと。 じょうけん3 三文目からは、「しかし、」ではじめて、アップでとった写真ではわからないことを書くこと。 じょうけん4 百五十字くらいで書くこと。

解く(計7問)。以下のような形式で作成した。

(3) 調査の手順

- ① 調査手順の説明書を基に担任が行う。
- ② 10分間説明文を読み、残り35分間で発問に答える形式(実際にはペーパーに記述)を取る。

(4) 調査の内容

- ① 発問については、精読に関する発問(文章構成を含む)と広げる発問の2種類を問う。
- ② 答えの記述については、○字以内で、理由を付けてなどの条件を与える。

(5) 調査の時期

令和元年7月

4 事物説明文(「じどう車くらべ」)の読解力調査の結果と考察

4.1 学年段階に応じた調査結果と考察

4.1.1 第1学年の調査結果と考察

1 問題1の結果と考察

(1) 問題の趣旨

説明文の題名の付け方が理解できているのかを問う問題である。説明文の題名の付け方において自然の動植物や日常生活の身近な事物を対象とする場合には、「対象+筆者の見方・考え方」という構成形式になることが多い。「くらべ」に筆者の考えが表現されているのである。また、題名を読むことで、内容の予想が可能となる。

(2) 解答率

	正答	誤答	無解答
率(%)	0	20	80

(3) 誤答における結果と考察

第1学年の入門期に調査を行ったということもあり、問題の意味を的確に捉えることが難しかったのだろう。

【誤答例】 どうろをはしる。人をのせてはこぶ仕事をしている。

また、問題の意味を理解したとしてもどのように解答すればよいのかわからなかったなども考えられる。

2 問題2の結果と考察

(1) 問題の趣旨

二文を一文にするパラフレイズという言語操作ができるのかを問う問題である。パラフレイズは、連文関係の理解が前提となる。パラフレイズは、平成19年度⁸⁾及び平成21年度⁹⁾に実施された全国学力・学習状況調査においても「一文を二文に分ける」といった同様な問題が出題されているが、この正答率もそれぞれ57.9%、15%と低く課題である。

(2) 解答率

	正答	誤答	無解答
率(%)	0	10	90

(3) 誤答における結果と考察

問題の意味を的確に捉えることが難しかったことやパラフレイズすることを学んでいなかったことなどが考えられる。

【誤答例】 そのためは、ふたつのぶんをひとつにぬかす。(ママ)

3 問題3の結果と考察

筆者の例の挙げ方の工夫を問う問題である。展開部で例を挙げて説明している説明文は、低学年～中学年に多く見られる。読者に理解を促すために、展開部における例示の順序を把握する必要がある。教科書の説明文を見ると、「じどう車くらべ」、「いろいろなふね」「かたちを変える大豆」などのように、「よく見かけるものからあまり見かけないもの」「知っているものから知らないもの」などの順序が多い。これら以外でも「具体物から抽象的な物へ」「簡単なものから複雑なものへ」などがある。

(2) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率(%)	0	26	10	64

※正誤以外の解答とは、正答と誤答以外の解答を指す。

(3) 誤答における結果と考察

問題の意味は捉えている。

【誤答例】 おせいじゅんぱん。

しかし、これは実際に考えられる順序ではない。読解した後に、自分の生活と繋げ、どのような順序なのかを考えるとつまずいているものとする。

4 問題4の結果と考察

(1) 問題の趣旨

問題にあるイラストをもとにして、「仕事」と「つくり」について、示された文を参考にリライトする問題である。自分の経験とイラストを繋ぎ合わせ情報を得て、条件に合わせて記述する力が求められる。

(2) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	4	22	12	62

(3) 正答における結果と考察

【正答例】 ほうすとはしごがついています。ひとをたすける仕事。

自分の経験とイラストを繋ぐことはできている。しかし、「ために」という接続詞を使うことができていない。

(4) 誤答における結果と考察

自分の経験とイラストを繋げることはできている。

【誤答例】 はしご、ほうす、たいや、ひとをたすける。

しかし、記述する言葉が断片的であり、文で書くことが難しかったのだろう。

5 問題5の結果と考察

(1) 問題の趣旨

説明するカテゴリーが理解できているのかを問う問題である。説明文における説明のカテゴリーは多くある。この教材文においては、「仕事」と「つくり」というカテゴリーである。「仕事」は、機能的な説明¹⁰⁾をしているので、同様なカテゴリーとしては、「働き」、「機能」、「効果」「意義」「価値」「重要性」などがある。また、「つくり」は構造的説明をしているので、同様なカテゴリーは、「組織」「構造」などがある。

(2) 解答率

	正答	誤答	無解答
率 (%)	8	18	74

(3) 正答における結果と考察

この問題文には、「仕事」や「つくり」というカテゴリーは出てきていないが、次の文章に下線を引き、読解することはできている。

【正答例】 けがをしたひとやびょうきのひとをびょういんにはこびます。(仕事)くるまのなかに、べつとやちりょうにつかうどうぐをおく。(つくり)

(4) 誤答における結果と考察

「仕事」または「つくり」のどちらかを記述

している。

類型	文例
1	けがをしたひとやびょうきのひとをびょういんにはこびます。
2	くるまのなかに、べつとやちりょうにつかうどうぐをおく。

問題の意味を的確に捉えることが難しかったのか、隠れているカテゴリーに気が付かなかったのかであろう。

6 問題6の結果と考察

(1) 問題の趣旨

読書プロセスにおいて、調べたい内容を本で検索する能力を問う問題である。児童は調べたいことに応じて本を探すことが難しい。

(2) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	38	18	2	42

(3) 正答における結果と考察

正答例としては、次の1種類のみである。

【正答例】 のりものずかん

「のりものずかん」だけで広がりがなかった。

(4) 誤答における結果と考察

【誤答例】 いろいろなじどう車が走っています。

本を検索する経験の少なさからであろう。

7 問題全文から見た結果と考察

正答率から見ると、問題6が一番高いが、それでも38%である。入門期ということもあり、自由読書で本の検索をするという経験はあるものの、目的を持って本を検索するという経験は少ないと考えられる。その他の問題は、正答率が0%というものが多く、まだ読解力や記述力が十分に身に付いていないのだろう。

4. 1. 2 第2学年の調査結果と考察

1 問題1の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	46	24	26	4

(2) 正答における結果と考察

題名の「じどう車」と「じどう車くらべ」の違いに触れなくてはならない。

【正答例】 「じどう車」は車、「じどう車くらべ」は、○と○○のちがいです。

筆者が自動車の働きや機能などを比べようとしていることが題名に表現されていることを理

解している。

(3) 誤答における結果と考察

主に、次の2種類の誤答があった。

類型	文例
1	「じどう車くらべ」はじどう車をくらべることがわかります。
2	「じどう車」と「じどう車くらべ」は、「じどう車くらべ」はだめい。じどう車はくるまではしるから。

類型1は、「じどう車」と「じどう車くらべ」のどちらか一方しか記述していないもの、類型2は、両方を記述しているが、正しくない内容のものである。問われている意味や説明文の題名が表す意味を理解していないと考えられる。

(5) 正誤以外の解答における結果と考察

「いろいろなじどう車があはしています。」
「トラックくらべ」などと記述しており、問題の意味を的確に捉えることが難しかったと考えられる。

2 問題2の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	40	38	14	8

(2) 正答における結果と考察

主に、次の5種類を記述していた。

類型	文例
1	バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶ仕事のために(ため)、ざせきのところがひろくつくってあります。
2	人をのせているから、人がのれるようにざせきがひろくなっている。
3	バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶ仕事をしていて、そのためにざせきのところがひろくつくってあります。
4	バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶ仕事をしていて、ざせきのところがひろくつくってあります。
5	バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶ仕事をしているので、ざせきのところがひろくつくってあります。

これらの児童は、文と文の意味のつながりを考えながら、適切な接続語を使ってパラフレイズしている。

(3) 誤答における結果と考察

主に、次の3種類の誤答があった。

類型	文例
1	バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶ仕事。
2	バスやじょうよう車は、そのためにざせきのところがひろくつくってあります。
3	バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶ仕事をしていいます。人がのるバスは、ざせきがひろくつくってあります。

類型1と2は、「仕事」または「つくり」のどちらか一方しか記述しておらず、問題の意味

を的確に捉えていない。類型3は、一文にパラフレイズしていないものである。

3 問題3の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	22	42	22	14

(2) 正答における結果と考察

主に、次の4種類を記述していた。

類型	文例
1	人がのれるにんずうのじゆんじよ。
2	ざせきがひろいじゆんからざせきがせまいじゆん。
3	ざせきの多いじゆんじよ。
4	よくみるじどう車からあまりよくみないじどう車。

自分の経験と繋げ、例を並べる順序の工夫を讀解している。

(3) 誤答における結果と考察

主に、次の種類の通りである。

類型	文例
1	高いじゆんじよ。大きいじゆんじよ。
2	広いじゆんじよ。
3	でてくるじゆんじよ。

類型1や2は、問題の意味は捉えているものの、正しい順序ではない。類型3は、問題の意味を的確に捉えることが難しかったと考えられる。

4 問題4の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	42	38	16	4

(2) 正答における結果と考察

主に、次の3種類を記述していた。

類型	文例
1	はしご車の仕事は、かじを水でけず仕事をしていいます。中にいた人をたすけるために はしごがついています。
2	はしご車の仕事はかじのときにげんばにいる人はしごをのぼして人をたすける仕事をしていいます。だから、くるまの上にはしごがあります。(ママ)
3	はしご車はタイヤとはしごがついています。かじのとき、火をけしたり人をたすけたりします。

類型1と2は、適切な接続詞を使い、記述している。類型3は、「つくり」+「仕事」という順序で記述している。自分の知識や経験とイラストを繋げ、「仕事(働き)」と「つくり(機能)」を読み取っている。

(3) 誤答における結果と考察

誤答は、「仕事」または「つくり」のどちら

かのみを記述しただけのものである。

【誤答例】 はしご車は、かじになっているところをけしてはしごに人をのせて、きゅうじよしてはしごをもとのばしょにもどす。

(4) 正誤以外の解答における結果と考察

「クレーン車」について記述している。これは、問題の意味を的確に捉えることが難しかったと考えられる。

5 問題5の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	無解答
率 (%)	46	8	46

(2) 正答における結果と考察

【正答例】 けがをしたひとやびょうきのひとをびょういんにはこびます。(仕事)くるまのなかに、べつとやちりょうにつかうどうぐをおく。(つくり)

ここでは、「仕事」や「つくり」というカテゴリーはでていないが、読解できている。

(3) 誤答における結果と考察

「仕事」または「つくり」のどちらかしか記述していない。

類型	文例
1	けがをしたひとやびょうきのひとをびょういんにはこびます。
2	くるまのなかに、べつとやちりょうにつかうどうぐをおく。

問題の意味を的確に捉えられなかったのか、隠れているカテゴリーに気が付かなかったかだろう。

6 問題6の結果と考察

(1) 解答率

	正答・準正答	誤答	無解答
率 (%)	74	8	18

(2) 正答における結果と考察

主に、次の4種類を記述していた。

類型	文例
1	いろいろなじどう車
2	のりものずかん
3	はたらくのりもの
4	けいさつのくるま

学校図書館などで検索した経験があり、本の名前を予想することができたと考えられる。

(3) 準正答における結果と考察

「パトカー○○」というものが多く、広がりには欠ける。

【準正答例】 パトカーだいしゅうごう。パトカーのみみつ。

(4) 誤答における結果と考察

主な誤答類型は、次のとおりである。

類型	文例
1	いろいろなずかん
2	どろぼうをたいほするくるま

類型1は、「いろいろ」と記述しており、本を特定したものではない。類型2は、パトカーを説明しているが、実際ある本の題名ではない。

7 問題全文から見た結果と考察

正答率から見ると、問題6が一番高く、74%である。言語活動で自分が調べようとする自動車について検索をした経験があるからであろう。しかし、問題3は、正答率が低い。内容中心に読解していたのでは身に付かないだろう。

4. 1. 3 第3学年の調査結果と考察

1 問題1の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	74	16	8	2

(2) 正答における結果と考察

第1学年や第2学年の解答より、具体的である。

【正答例】 「じどう車」はいろんなりもので、「じどう車くらべ」は、じどう車をたくさんあつめて、たくさんのかのうやすごいところやできることをくらべるといふこと。

「じどう車」と「じどう車くらべ」の違いを記述し、「じどう車くらべ」では自動車の何を比べているのかということらまで記述している。

(3) 誤答における結果と考察

【誤答例】 「じどう車くらべ」は、○○がいますかなど聞かれるけど、「じどう車」はじどう車のせつめいがされている。(ママ)

題名が対象+筆者の見方・考えになっていることを理解していない。

2 問題2の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	64	28	4	4

(2) 正答における結果と考察

主に、次の通りである。

類型	文例
1	バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶ仕事のために(ため)、ざせきのところが広くつくってあります。
2	バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶ仕事をしていて、そのために、ざせきのところがひろくつくってあります。
3	バスやじょうよう車は、人をのせてはこぶ仕事をしているので、ざせきのところがひろくつくってあります。

これらの児童は連文関係を理解し、適切な接続詞を使い、パラフレイズできている。

(3) 誤答における結果と考察

類型	文例
1	そのために、ざせきのところが広く、外のけしきがよくみえるように、まどが大きくつくられた。
2	バスやじょうよう車は人をのせてはこぶ仕事をしています。なので、ざせきのところが、ひろくつくってあります。

類型1は、「仕事」または「つくり」のどちらか一方しか記述していない。問題の意味を的確に捉えることが難しかったのだろう。類型2は、二文のまま記述したりしている。連文関係や接続詞の使い方を理解していないと言えよう。また、問題の意味を的確に捉えることが難しかったのかもしれない。

3 問題3の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	26	52	18	4

(2) 正答における結果と考察

【正答例】よく見かけるものから見かけないもの。

自分の生活と繋げ、例を並べる順序の工夫を読解している。

(3) 誤答における結果と考察

類型	文例
1	高いじゆんじよ。重たいじゆんじよ。
2	人をのせるものからにもつをはこぶ車から物をつりあげる車。

類型1の「高い順序」「重たい順序」などが多く、問題の意味は捉えているが、正しくない順序である。類型2は問題文にでてくる車の順序と捉えてそれを記述している。

4 問題4の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	62	12	18	8

(2) 正答における結果と考察

【正答例】はしご車はさぎょうするためにあります。そのために、はしごがのびたり、うごいたり、ちぢんだりします。

児童は、自分の知識や経験とイラストを繋げ、「仕事」と「つくり」を明確に位置付けて記述しており、「仕事」と「つくり」の関係を理解していると考えられる。

(3) 誤答における結果と考察

「仕事」または「つくり」のどちらか一方しか記述していない。

類型	文例
1	仕事は高いところでさぎょうしている。
2	まどはまえのせきしかなく、2つついていて、はしごが長く作ってある。

問題の意味を的確に捉えることが難しかったのだろう。

(4) 正誤以外の解答における結果と考察

「クレーン車」について記述していた。問題の意味を的確に捉えることが難しかったのだろう。

5 問題5の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	無解答
率 (%)	78	4	18

(2) 正答における結果と考察

【正答例】けがをしたひとやびょうきのひとをびょういんにはこびます。(仕事)くるまのなかに、べつとやちりょうにつかうどうぐをおく。(つくり)

「仕事」や「つくり」というカテゴリはできていないが、読解できている。

(3) 誤答における結果と考察

「仕事」または「つくり」のどちらかのみに線を引いている。

類型	文例
1	けがをしたひとやびょうきのひとをびょういんにはこびます。
2	くるまのなかに、べつとやちりょうにつかうどうぐをおく。

問題の意味を的確に捉えることが不十分であったと考えられる。

6 問題6の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	無解答
率 (%)	90	4	6

(2) 正答における結果と考察

主に、次の4種類を記述していた。

類型	文例
1	じどう車。いろいろなじどう車。
2	どうろをはしるじどう車。
3	はたらく車。けいさつ車。
4	のりものずかん。

学校図書館などで、検索した経験があり、名前を予想することができたのであろう。

(3) 誤答における結果と考察

【誤答例】はんざいやびょうき車

パトカーと救急車が混在していると考えられる。

7 問題全文から見た結果と考察

正答率から見ると、問題6が一番高く、90%である。言語活動において自分が調べる自動車と本を繋げる経験しているからだろう。しかし、問題3は、正答率が低い。内容を整理するだけに留まっているからだろう。

4. 2 第1～第3学年までを通して見た調査結果と考察

第1～第3学年までの調査結果を一覧表にして考察すると以下の特徴があることがわかる。

○ 正答率は、いずれの問題も学年が上がるにつれて上昇している。誤答率は、ほとんどの問題が、学年が上がるとうがっている。無解答率も全問題において、学年が上がるにつれて下がっている。

○ 第1～第3学年とも問題6の正答率が一番高い。本を検索する力が育っているのではないかな。

○ 第1～第3学年とも問題3の正答率が一番低い。学年が上がるにつれて、正答率は伸びているものの、第3学年でもわずか26%である。どの学年においても課題である。文章全体の構成を捉え、展開部での例の挙げ方の工夫を把握するのはどの学年においても難しい。

4. 3 第1～第3学年までの発問の工夫と授業のアイデア

4. 3. 1 発問の工夫

井上(2015)⁷⁾は、アクティブ・ラーニング時代の発問として、今まで<教師の発問>だけだったのを<学習者のための発問>でなければならぬとしている。そのような提案を参考に、調査を踏まえてどのような発問の工夫が必要なのか考えてみたい。

事例の挙げ方の工夫を読み取るには、まず、文章全体の構成を把握する必要がある。しかし、第1～第3学年における説明文を分析すると、終結部がなく、冒頭部と展開部だけの説明文が多い。そこで、次のような発問の工夫が考えられる。

○ 「おわり」をつくらせるとどのようになりますか。

○ 「なか」のクレーン車のあとには、どのよ

うな車のせつめいが入りますか。それは、なぜですか。

○ 「なか」の「バスやじょうよう車」, 「トラック」, 「クレーン車」を自分が考えたじゅんじょでならべかえましょう。なぜ、そのようなじゅんじょにならべかえしましたか。

また、次のような発問もある。

○ 「じどう車くらべ」には、「しごと」と「つくり」ということばがあります。それらをちがうことばになおしましょう。

4. 3. 2 授業アイデア

○ 図鑑や科学読み物で事例の挙げ方やその順序について調べて発表する授業

○ 冒頭部や終結部を生かして、展開部を自分の考えで書く授業

5 説明的説明文(「アップとルーズで伝える」)の読解力調査の結果と考察

5. 1 学年段階に応じた調査結果と考察

5. 1. 1 第4学年の調査結果と考察

1 問題1の結果と考察

(1) 問題の趣旨

説明文の題名が意図することを問う問題である。「アップとルーズで伝える」の題名も「対象+筆者の見方・考え」で構成されている。

(2) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	48	22	26	4

(3) 正答における結果と考察

【正答例】 「アップとルーズ」という題名だとアップとルーズとは何かわからない人に説明すること。「アップとルーズで伝える」だと伝え方を説明すること。

違いを記述し、題名の構成を理解している。

(4) 誤答における結果と考察

主な類型は、次の通りである。

類型	文例
1	「アップとルーズで伝える」の方がこの説明文ではいいと思います。
2	「アップとルーズ」だと何のことかわからないので、「伝える」を入れた方がより分かりやすいから。

類型1は、「アップとルーズで伝える」のみを記述している。類型2は、両方を記述しているが、「伝える」ということは「筆者の見方・

考え」が表現されているので、その説明が不足している。

2 問題2の結果と考察

(1) 問題の趣旨

冒頭部の働きを問う問題である。冒頭部は、「前提となる事実」と「問い」で成り立っている。前提となる事実が、読者が未知のことならば、そのことについての説明を多くする必要がある。

(2) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	66	20	10	4

(3) 正答における結果と考察

【正答例】 筆者が、アップとルーズを知らない人のために、まずアップとルーズを説明して、そして、そこで違いが分かってから問いをしたかったから。

冒頭部に前提となる事実が読者の既知によって違うことを理解している。

(4) 誤答における結果と考察

【誤答例】 ㉞と㉟ははじめの言葉のような感じ。

前提となる事実を読者と筆者が共有するための筆者の工夫であることに気付く必要がある。

3 問題3の結果と考察

(1) 問題の趣旨

「アップ」と「ルーズ」の意味を理解し、実生活の中からそれに適したものを選択できるかを問う問題である。

(2) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	28	10	30	32

(3) 正答における結果と考察

解答としては、2種類の記述のみであった。

【正答例】 雑誌。教科書。

テレビ以外のメディアでアップとルーズの例を生活経験から答えることができている。

(4) 誤答における結果と考察

誤答としては、「テレビ」「新聞」と記述している。問題文の「テレビ」「新聞」がそのまま答えになっている。72%の児童は、「アップ」と「ルーズ」の意味を読解し、生活の中から選択できていない。

4 問題4の結果と考察

(1) 問題の趣旨

写真と文章を繋げることができるか問う問題である。

(2) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	34	56	2	8

(3) 正答における結果と考察

類型	文例	
1	㉞	「ルーズでとると広いはんいの様子がよく分かる」と書いてあり、実際に写真を入れると分かりやすいから。
2		最初に「試合終了後のシーンを見てみましょう」と書いてあるから。

類型1, 2は、文章と写真を繋げるような読解ができている。

(4) 誤答における結果と考察

主に、次の二つの類型に分けられる。

類型	文例	
1	㉞	読みやすいから。
	㉟	ルーズに関係のある言葉があるから。
2	㉞	ルーズの意味が書いてあるから。
	㉟	最初にこのようにと書いてあるから。

類型1は、問題文に「テレビの説明部分の㉞と㉟と㉞の段落の下に写真を入れます。」と説明があるにも関わらず、㉞と㉞を記述しており、問題の意味を的確に捉えることができなかったのだろう。類型2は、「ルーズ」だけについて記述している段落を探すことができなかったのだろう。

5 問題5の結果と考察

(1) 問題の趣旨

パラフレイズをすることで、アップで撮った写真のよさを問う問題である。

(2) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	30	48	12	10

(3) 正答における結果と考察

【正答例】 アップでとった写真は、各選手の顔つきや視線、それから感じられる気持ちもわかります。

パラフレイズすることで、「アップ」と「ルーズ」のプラス面とマイナス面を読解している。

(4) 誤答における結果と考察

問題文には、「その文を『アップでとった写真は、』からはじめて書きかえましょう。」とあるが、次のような誤答があった。

【誤答例】 アップでとった写真は、うつされていないもの様子は分かりません。

指示語「その」の読解が難しかったのだろう。

6 問題6の結果と考察

(1) 問題の趣旨

あることに対して、長所と短所という両面を思考し、記述する能力を問う問題である。

(2) 解答率

	正答	誤答	無解答
率 (%)	46	44	10

(3) 正答における結果と考察

【正答例】 スプーンは、スプーンやこまかいまめなどをすくうことができます。しかし、はしのようにはさむことはできません。

「はし」の文章を参考に、スプーンの長所と短所の両面を記述することができている。

(4) 誤答における結果と考察

【誤答例】 スプーンは、ごはんなどをいっぱいすくうときやいっぱいとるときやコーンなどをいっぱいとるときに役立ちます。

「はし」を参考にしてスプーンの長所（または短所）の一面のみを記述している。

7 問題7の結果と考察

(1) 問題の趣旨

写真を見て条件に合わせて記述することができるかを問う問題である。

(2) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	58	6	10	26

(3) 正答における結果と考察

写真を見て条件に合わせて記述できている。

【正答例】 アップでとった大きな口をあけたライオンのシーンを見てみましょう。アップでとると、するどいきばや顔つき、視線がとてもわかります。しかし、アップでとるとまわりの様子やうつされていない部分はどうなっているのかわかりません。

(4) 誤答における結果と考察

この例のように文章が途中で終わっているものがある。これは、時間が不足したのだろう。

【誤答例】 アップでとったライオンの口のシーンを見てみましょう。アップで写真をとるとライオンの様子がよくわかります。しかし、ライオン（ママ）

8 問題全文から見た結果と考察

問題2は、比較的正答率が高い。問題2については、冒頭部が前提となる事実と問いという

構造になっていることを理解している児童が多いことがわかる。しかし、問題3、問題4、問題5は課題がある。問題3は、読解したことを実生活と繋げる力、問題4は、文章と写真を繋げる力、問題5は、パラフレイズする力である。

5. 1. 2 第5学年の調査結果と考察

1 問題1の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	54	40	6	0

(2) 正答における結果と考察

【正答例】 「アップとルーズ」だとその説明。「アップとルーズで伝える」だとその伝え方。

題名は、「対象+筆者の見方・考え」を理解している。「伝える」と書くことで、筆者はアップとルーズをどのように活用しているのかについて述べようとしていると予想できている。

(3) 誤答における結果と考察

【誤答例】 「アップとルーズ」だけだと何をするのかかわからないけど、「アップとルーズで伝える」だと何かをするのかわかる。

違いがあるとはなんとなく理解しているが、「伝える」が筆者の見方・考え方であると理解していない。

2 問題2の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	60	38	0	2

(2) 正答における結果と考察

【正答例】 最初にアップとルーズの説明がないとアップとルーズがわからないまま問いかけると読者は理解できないから。

冒頭部に前提となる事実が読者の既知によって違うことを理解している。

(3) 誤答における結果と考察

主な誤答類型は次の通りである。

類型	文例
1	アップとルーズのことを書いているから。
2	問いの前に書いたらいいと思ったから。

類型1、2ともに、前提となる事実を読者と筆者が共有するための筆者の工夫であることに気付く必要がある。

3 問題3の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	12	36	30	22

(2) 正答における結果と考察

次の6種類を記述していた。

【正答例】	スマホ。ずかん。ポスター。ゲーム。ざっし。マンガ。
-------	---------------------------

テレビ以外のメディアで、アップとルーズの例を生活経験から答えている。

(3) 誤答における結果と考察

誤答としては、「新聞」「アップとルーズでとった写真」などと記述している。問題文の例である「新聞」「写真」がそのまま解答になっている。9割の児童が「アップ」と「ルーズ」の意味を読解するとともに、それを生活に繋げて考えるということが難しかった。

4 問題4の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	44	48	0	8

(2) 正答における結果と考察

類型	文例
1	㊦ ルーズの説明があるから。

問題文を理解し、文章と写真を繋げることができている。

(3) 誤答における結果と考察

類型	文例
1	㊦ 会場全体がうつしだされていますと書いてあるから。
	㊧ ルーズのことを言っているから。
	㊨ 大きく表現などがあるから。
2	㊩ ルーズのことを言っているから。
	㊪ テレビでは何台もカメラが使われているから。

類型1は、問題文に「テレビの説明部分の㊦と㊧と㊨の段落の下に写真を入れます。」と説明があるにも関わらず、㊦、㊧、㊨を記述している。類型2は、「ルーズ」だけについて記述している段落を探すことができていない。

5 問題5の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	36	60	2	2

(2) 正答における結果と考察

【正答例】	アップでとった写真は、各選手の顔つきや視線、それから感じられる気持ちもわかります。
-------	---

パラフレイズすることで、「アップ」と「ルーズ」のプラス面とマイナス面の両方を読解している。

(3) 誤答における結果と考察

【誤答例】	アップでとった写真は、うつされていない多くの部分のことはわからない。
-------	------------------------------------

指示語の「その」を読解することが難しかった。

6 問題6の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	58	40	0	2

(2) 正答における結果と考察

正答例としては、「スプーンは、スープのようなものをのむことはできます。しかし、ちいさいものをはさんでいどうすることはできません。」と「はし」の文章を参考に、スプーンの長所と短所の両面から記述ができています。

(3) 誤答における結果と考察

類型	文例
1	スプーンは、はしでとりにくいものをすくいます。たとえば、しるものなどです。
2	スプーンは、しるものなどをすくって食べることができます。しかし、はしはスープなどをすくうことはできません。

類型1は、「はし」を参考にしてスプーンの長所（または短所）の一面のみしか書いていない。類型2は、「スプーン」についての記述が求められているにも関わらず、「はし」と「スプーン」の両方を記述している。あるものを両面から捉えて記述することが難しかったのか、問題文の意味を正確に捉えることが難しかったのかだろう。

7 問題7の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	86	12	0	2

(2) 正答における結果と考察

【正答例】	アップでとったライオンのシーンを見てみましょう。アップでとることで、ライオンのこまかいところや顔のとくちょうがわかりやすいです。しかし、ライオンがどのようなかんきょうにすんでいるのかやほかのライオンはどのようなことをしているのか、このライオンがいの多くの部分のことはアップではわかりません。
-------	---

写真を見て条件に合わせて記述できている。

(3) 誤答における結果と考察

【誤答例】 アップでとったライオンのシーンを見てみましょう。アップでとった写真のいいところは大きくてみやすいことです。しかし、アップすると大きすぎていやな人もいられるかもしれません。

これは、条件に合わせて書こうとはしているが、徐々に問題から離れていっている。

8 問題全文から見た結果と考察

問題7の正答率は86%と高い。写真を見て条件に合わせて記述するという力は概ね身に付いているだろう。全国学力・学習状況調査以降各学校においては、条件に合わせて記述するという授業が多くなったということもあるだろう。しかし、問題3については、正答率がわずか12%ということで、大きな課題である。文章を読解して、それに基づいて生活の中からそれに適したものを選択するという力であるが、教材文の内容を整理するだけでこのような力は身に付かないであろう。

5. 1. 3 第6学年の調査結果と考察

1 問題1の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	46	48	6	0

(2) 正答における結果と考察

【正答例】 「アップとルーズ」だとその説明だけけど、「アップとルーズで伝える」だとそれを使ってテレビや新聞で読者などにどのように伝えるかを書いている。

題名は、「対象+筆者の見方・考え」である。「伝える」と書くことで、筆者はアップとルーズをどのように活用して伝えようとしているかを述べようとしていることを理解できている。

(3) 誤答における結果と考察

誤答例としては、「『アップとルーズ』では一つのことを言っているように感じるが、『アップとルーズで伝える』だと二つでまとまっていると感じた。」と記述している。何となく違いがわかるが、題名が、「対象+筆者の見方・考え」であることは理解していない。

2 問題2の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	64	34	2	0

(2) 正答における結果と考察

【正答例】 アップとルーズの違いの説明をして、問いをださない問いの意味がわからないから。

冒頭部に前提となる事実が読者の既知によって違うことを理解している。

(3) 誤答における結果と考察

主に、次の2種類を記述していた。

類型	文例
1	これはまだはじまっていないということでハーフで全体を見わたしてはじまるアップにきりかえて大事な部分をとるといいから。
2	読者をひきつけやすくきょうみをもってもらうことができる。

類型1は、問題文の意味を捉えることが難しかったと考えられる。類型2は、冒頭部の前提となる事実の書き方が読者の既知によって違うことに言及していない。

3 問題3の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	34	22	30	14

(2) 正答における結果と考察

主に、次の11種類を記述していた。

【正答例】 アニメ。本。ざっし。ビデオ。ずかん。絵。ゲーム。パンフレット。えいが。インスタ。ツイッター。

テレビ以外のメディアでアップとルーズの例を生活経験から答えることができている。

(3) 誤答における結果と考察

【誤答例】 写真。ゴールしている写真。

問題文の「写真」がそのまま解答になっている。66%の児童が「アップ」と「ルーズ」の意味を読解するとともに、それを生活に繋げて考えるということが難しかったと考えられる。

4 問題4の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	48	48	0	4

(2) 正答における結果と考察

類型	文例
1	㊸ ルーズのいいところや欠点を書いてあるから。

文章と写真を繋げて読解することができている。

(3) 誤答における結果と考察

類型	文例
1	㊹ ルーズのことが書いてあるから。
	㊺ ルーズのことが書いてあるから。
	㊻ ルーズの説明があるから。
2	㊼ ルーズの意味が書いてあるから。

類型1は、問題文に「テレビの説明部分の㉔と㉕と㉖の段落の下に写真を入れます。」と説明があるにも関わらず、㉔、㉕、㉖を記述しており、問題の意味を的確に捉えることができなかったのだろう。類型2の㉗の段落は、アップとルーズ両方について触れているので、写真を入れるとすると両方の写真が必要である。したがって、「ルーズ」だけについて記述してある段落を探すことが必要である。

5 問題5の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	62	32	2	4

(2) 正答における結果と考察

【正答例】 アップでとった写真は、各選手の顔つきや視線、それから感じられる気持ちもわかります。

パラフレイズすることで、「アップ」と「ルーズ」のプラス面とマイナス面の両方を読解している。

(3) 誤答における結果と考察

問題文には、「その文を『アップでとった写真は、』からはじめて書きかえましょう。」とあるが、次のような誤答があった。

【誤答例】 アップでとった写真は、うつさされていない多くの部分はわからない。

指示語の「その」の読解が難しかった。

6 問題6の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	62	36	2	0

(2) 正答における結果と考察

【正答例】 スプーンは、カレーのようにごはんとカレーを2つ同時にたべることができます。しかし、物をはさむことはできません。

「はし」の文章を参考に、スプーンの長所と短所の両面から記述できている。

(3) 誤答における結果と考察

類型!	文例
1	スプーンは、小さい子でもかんたんに使うことができます。だから、だれでも使えます。
2	スプーンは、カレーなどのルーをすくったり、と中でおしたりしません。しかし、はしはスプーンのようなものをすくうことはできません。

類型1は、「はし」を参考にしてスプーンの長所（または短所）の一面のみを書いている。

類型2は、二文目の主語を「はしは」にして記述している。これは、「スプーン」と「はし」の両方を主語にして記述しなければならないと捉えたのではないだろうか

7 問題7の結果と考察

(1) 解答率

	正答	誤答	正誤以外の解答	無解答
率 (%)	90	6	4	0

(2) 正答における結果と考察

【正答例】 アップでとったライオンがさげんでいるシーンを見てみましょう。ライオンの顔つきやこまかい毛などが見えます。ライオンの顔全体が見えてはく力があります。しかし、ライオンの周りの様子が分かりません。ライオンはどこにいるのか、周りには何頭のライオンの仲間がいるのかなどアップでは分かりません。

これは、写真を見て条件に合わせて記述できている。

(3) 誤答における結果と考察

【誤答例】 アップでとったライオンのあくびのシーンを見てみましょう。アップでとると遠くからとっても大きくすることができます。しかし、ルーズで取ると全体がよくとれて全体の様子がよくわかります。アップとルーズでどちらもとったらいいと思います。

条件に合わせて書いているものの、途中から、写真から遊離し自分の考えを記述している。最後まで、条件に合わせて書くことが必要である。

8 問題全文から見た結果と考察

問題7は正答率が9割である。問題7は、写真を見て条件に合わせて記述する力であり、ほとんどの児童が身に付いている。しかし、問題3については課題があり、読解したことを自分の生活と繋げて読むことは難しい。

5. 2 第4～第6学年までを通して見た調査結果と考察

第4～第6学年までの調査結果を一覧表にして考察すると以下のような特徴があることがわかる。

- 正答率は、問題4～7は学年が上がるにつれて上昇しているが、問題1～3については、そうではない。本文の内容を整理することだけでは身に付かない力であろう。誤答率は、学年が上がるにつれて必ずしも減少するとは限らない。無解答率は、学年が上がるにつれて減少している。

○ 問題7の正答率が第4～第6学年どの学年においても一番高い。また、伸びも一番顕著であり、第6学年では90%の正答率である。

○ 問題3がどの学年においても正答率が低く、第5学年では12%である。読解したことを生活と繋げることが苦手であると考えられる。

5. 3 第4～第6学年までの発問の工夫と授業のアイデア

5. 3. 1 発問の工夫

問題3の正答率が一番悪かったので、読解したことと実生活を繋げる発問を考えてみたい。

○ 筆者にここにこんな写真を入れると分かりやすいとアドバイスしましょう。

○ 「アップ」と「ルーズ」の説明をアニメを例にして書いてみましょう。

また、思考力を付ける次のような発問が考えられる。

○ 「アップ」と「ルーズ」の書き方を参考に「ベッド」と「ふとん」について書いてみましょう。

さらに、写真の効果を問う発問も考えられる。

○ 写真がある問題文と写真がない問題文を比べて、写真の効果を考えましょう。

5. 3. 2 授業アイデア

○ 説明文や図鑑に使われている図表、イラスト、写真などの資料の妥当性を問う授業

○ プラス面から書かれている文章をマイナス面に書き換える授業

6 読解や記述の実態から見た発問の可能性と今後の展望

これらの調査の結果から、題名を読む、事例の挙げ方を読む、自分の知識や経験と繋げて読むなどの発問に課題があることがわかった。また、思考を伴う発問にも課題があることがわかった。明確な目的・意図を設定し、児童にも分かりやすい表現を用いた発問を構想する必要である。

7 引用文献

- 1) OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA2015)
- 2) 全国学力・学習状況調査報告書 (令和元年度)
- 3) 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申) 平成28年12月21日
- 4) 川本信幹, 『新編 魅力ある国語の授業を創る』, 2010, 東京書籍, pp36～pp37
- 5) 寺井正憲・伊崎一夫, 『発問-考える授業, 言語活動の授業における効果的な発問』, 2015, 東洋館出版, pp9～pp14
- 6) 青木伸生, 『青木伸生の国語授業フレームリーディングで説明文の授業づくり』, 2017, 明治図書, pp14～pp36
- 7) 井上一郎, 『読解力を育てる! 小学校国語 定番教材の発問モデル 説明文編 アクティブ・ラーニング型授業づくりのヒント』, 2015, 明治図書, pp8～pp17
- 8) 全国学力・学習状況調査報告書 (平成19年度)
- 9) 全国学力・学習状況調査報告書 (平成21年度)
- 10) 井上一郎, 『誰もが付けたい説明力』, 2005, 明治図書, pp93

8 参考文献

- 1) 学習指導要領 (平成20年度版)
- 2) 学習指導要領 (平成29年度版)
- 3) 井上一郎 (2005年) 『『読解力』を伸ばす読書活動-カリキュラムづくりと授業づくり』, 明治図書
- 4) 栗原昭徳・成石せつ子・竹下真生 (2006) 「小学校低学年国語科授業における学習活動の構想(1) - 2年説明文「さけが大きくなるまで」の教材解釈と発問づくり」, 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第21号
- 5) 三戸部修治 (2013) 『『単元を貫く言語活動』授業づくりと徹底解説&実践事例24』, 明治図書

付記1: 本研究は、令和元年度学長裁量経費をいただいで調査研究を行ったものである。

付記2: 本研究にあたっては、調査の構想及び調査結果分析・考察について井上一郎氏に協力・指導をいただいた。また、実際の調査は、唐津市立相知小学校、唐津市立巻木小学校、唐津市立湊小学校に行ってもらった。御協力いただいた先生方に、ここに記して感謝申し上げたい。